

# 安全広報誌

安衛委 No 83  
平成20年10月23日  
安全衛生推進委員会

## 【安全パトロール】

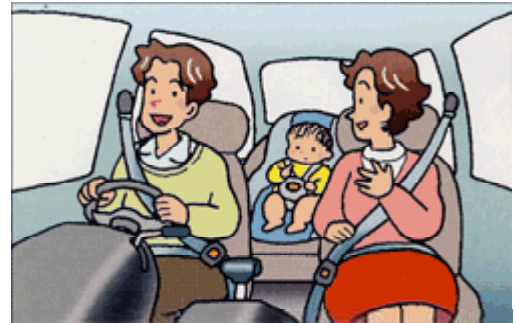
18日(土)に安全パトロールを実施しました。今回は社長に同行を願い、国道349号交通安全施設等整備(補助)工事、郡山大越線地域自立活化工事、原田中央線道路改良工事、本宮常葉線緊急地方道整備工事、旧住友大阪セメント社宅解体工事の5現場をパトロールし、指摘事項はありませんでした。これからも安全を最優先し、無事故無災害で工事を完成させてくださいとのことでした



## 【シートベルトやエアバックは本当に有効か？】

20日の郡山地区産業安全衛生大会で、太田西ノ内病院救命センター所長篠原さんの講演がありました。篠原所長は12年半にわたる交通事故負傷者の分析結果を纏め、シートベルト着用者の死亡率は非着用者の1/5で重症率も低く、シートベルトが命を守る力の大きさが救急医療の現場から裏付けられたとのことです。

平成7年7月から平成19年12月まで受け入れた交通事故の負傷者約8900例のうち、事故や怪我の状況が特定できた普通自動車、軽自動車などの約4400例を医学的・解剖学的見地から分析した結果。



### シートベルト着用・非着用別の重傷例

	死亡	集中治療	頭首重傷	顔面重傷	胸部重傷	腹部重傷	四肢重傷
着用2770例	42	136	134	13	155	60	144
比率	1.5%	4.9%	4.8%	0.5%	5.6%	2.2%	5.2%
非着用1601例	121	250	231	30	220	102	143
比率	7.6%	15.6%	14.4%	1.9%	13.7%	6.4%	8.9%

シートベルトを着用していた場合、負傷2770例のうち死亡は42例で死亡率は1.5%着用していなかった場合、負傷1601例のうち死亡は121例で死亡率は5倍の7.6%に跳ね上がった。車外に飛び出すなどして死亡した例が多かった。

エアバックについては、顔面の重傷率がエアバック展開で0.3%、非展開で1.1%となり効果がみられたが、爆発的に展開するためシートベルトを着けていないとかえって危険なことがあり大けがをして例も多かった。

車体の大小による違いでは、軽自動車の負傷者の死亡率が3.6%、普通自動車は3.8%で重傷率も大差はないが、車体の形状による違いでは、ボンネット型乗用車の負傷者の死亡者が3.4%のみ比べ、ボンネットのないキャブオーバー型車は5.4%で腹部、四肢の重傷率も高かった。怪我の程度を左右する最大の要因は、シートベルトを着用することでエアバックはあくまで補助的装備で、大型高級車でもシートベルトをしなれば、軽自動車にシートベルトをして乗るより何十倍も危険だとのことです。

後部座席も同じであり、妊婦の方も着用の必要性は同じであり、シートベルトはお腹に締めるのではなく、腰骨にかかるように着けるようにと話しをしていました。

## 【優良管理者表彰他】

この度、渡辺敏夫さんが郡山地区産業安全衛生大会席上で、安全優良管理者として表彰されました。これは永年安全衛生活動に精励し無災害が認められたことにより、事業の発展に寄与されたことによる表彰です。

また、田村東部交通安全大会の席上で、近内隆政さん、坪井英樹さんが「夏の交通事故防止県民総ぐるみ運動」の交通安全標語コンクールに応募した作品が、最優秀作品と入選作品に選ばれ表彰されました。

最優秀作品 「光っている あなたのマナーと 反射材」

近内隆政さん

入選作品 「事故防止 心に青葉の マークつけ」

坪井英樹さん

両作品とも休憩所に掲示しておきましたのでご覧下さい。